

記載例

様式例第1号の1

農地法第3条の規定による許可申請書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

阿蘇市農業委員会会長 殿

<譲渡人>

住所 阿蘇市〇〇123番地

氏名 阿蘇 太郎

印

<譲受人>

住所 阿蘇市〇〇345番地

氏名 阿蘇 次郎

印

下記農地（採草放牧地）について

該当事項に〇

所有権
賃借権
使用貸借による権利
その他使用収益権（ ）

を

移転
設定(期間〇〇年間)

賃貸借・使用貸借の場合年数を記入

したいので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。(該当する内容に〇を付してください)

記

1 申請者の氏名等

申請者	氏名	年齢	職業	住所
譲渡人	阿蘇 太郎	53	農業	阿蘇市〇〇123番地
譲受人	阿蘇 次郎	51	農業	阿蘇市〇〇345番地

2 許可を受けようとする土地の所在 (土地の登記記載事項証明書を添付してください。)

所在・地番	地目		面積 (㎡)	対価、賃料 等の額(円) [10a当りの額]	所有者の氏 名又は名称 現所有者が登記 簿と異なる場合	所有権以外の使用収益権が 設定されている場合	
	登記簿	現況				権利の 種類	権利者の氏名 又は名称
阿蘇市〇〇字〇〇〇〇番	田	田	567	345,000			

(記載要領)

- 1 申請者の氏名（法人にあつてはその代表者の氏名）の記載を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 2 法人である場合は、住所は主たる事業所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付(独立行政法人及び地方公共団体を除く。)してください。
- 3 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。

農地法第3条による許可申請書（別添）

一般記載事項

<農地法第3条第2項第1号関係>

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が、現に所有し、又は使用収益権を有する農地及び採草放牧地の状況

所有地		農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地 面積 (㎡)
	自作地					
	貸付地					
		所在・地番	地目		面積 (㎡)	状況・理由
			登記簿	現況		
非耕作地	阿蘇市〇〇字〇〇〇〇番	田	田	1, 2 3 4	荒廃 山間地	

所有地等に耕作放棄地がある場合に記載してください。

使用収益権を有する土地		農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地 面積 (㎡)
	自作地					
	貸付地					
		所在・地番	地目		面積 (㎡)	状況・理由
			登記簿	現況		
非耕作地	阿蘇市〇〇字〇〇〇〇番	田	田	1, 2 3 4	荒廃 山間地	

(記載要領)

1. 「自作地」及び「貸付地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。
2. 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に今日されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として、「～であることから条件不利地である。」、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～のために〇年間休耕中である」等自らの耕作又は養畜の事業に供することができない旨を詳細に記載してください。

記載例

1-2 権利を取得しようとする者及びその世帯員等の機械の所有状況、農作業に従事するものの数等の状況

(1) 作付(予定)作物別の作付面積

	田	畑			樹園地			採草放牧地
作付(予定)作物	水稻							
権利取得後の面積(m ²)	30,050							

(2) 大農機具又は家畜

数量	種類	トラクター	コンバイン	レーキ	軽トラ	
確保しているもの	所有	1	1	1	1	
	リース		1			
導入予定のもの	所有		1			
	リース					
	(資金繰りについて)		自己資金			

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕運機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ(融資を受けられることが確実なものに限る。)等資金繰りについても記載してください。

(3) 農作業に従事する者

- ① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況
 農作業暦 15年 農業技術研修学暦 3年、その他()

②世帯員等その他 常時雇用している労働力(人)	現在: 3人 (農作業経験の状況:)
	増員予定 0人 (農作業経験の状況:)
③臨時雇用労働力 (年間延べ人数)	現在: 2人 (農作業経験の状況:)
	増員予定 0人 (農作業経験の状況:)

- ④ ①~③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間

5 キロ 0.2 時間

記載例

<農地法第3条第2項第2号関係> (権利を取得する者が農業生産法人である場合のみ記載してください。)

2 その法人の構成員等の状況 (別紙に記載し、添付してください。)

<農地法第3条第2項第3号関係>

3 信託の引受け該当有無 (以下の該当するものに○を付けてください。)

信託の引き受けによる権利の取得

有	無
---	---

<農地法第3条第2項第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。)

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

(世帯員とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族を言います。)

- (1) その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業に常時従事している者の氏名
- (2) 年齢
- (3) 主たる職業
- (4) 権利取得者との関係

氏名	年齢	主たる職業	権利取得者との関係
阿蘇 次郎	51	農業	本人
阿蘇 花子	50	農業	妻

農業に常時従事している世帯員について記入。

(5) その者の農作業への従事状況 (該当する期間 (実績又は見込み) を「←→」で示してください。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間		←										→
その者が農作業に常時従事する期間			←									→

<農地法第3条第2項第5号関係>

5-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況 (一般)

(1) 権利取得後において耕作の事業に供する農地の面積の計

(1-1の①+③+権利を取得しようとする農地の面積) = 66,390 (m²)

(②) 権利取得後において耕作又は養畜の事業に供する採草放牧地の面積

(1-1の②+④+権利を取得しようとする採草放牧地の面積) = (m²)

5-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況（特例）

以下のいずれかに該当する場合は、5-1を記載することに代えて以下のうち該当するものに印を付してください。

- 権利の取得後における耕作の事業が、草花等の栽培でその経営が集約的に行なわれるものである。
- 権利を取得しようとする者が、農業委員会のあっせんに基づく農地又は採草放牧地の交換によりその権利を取得しようとするものであり、かつ、その交換の相手方の耕作の事業に供すべき農地の面積の合計又は耕作若しくは養畜の事業に供すべき採草放牧地の面積の合計が、その交換による権利の移転の結果所要の面積を下ることとならない。

（「所要の面積」とは北海道で2ha、都道府県で50aです。ただし、農業委員会が定めた面積がある場合には当該面積です。）

- 本件権利の設定又は移転は、その位置、面積形状等からみてこれに隣接する農地又は採草放牧地と一体として利用しなければ利用することが困難と認められる農地又は採草放牧地につき、当該隣接する農地又は採草放牧地を現に耕作又は養畜の事業に供しているものが権利を取得するものである。

<農地法第3条第2項第6号関係>（転貸する場合のみ記載してください。）**6 転貸が認められる場合への該当有無**

農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作放棄地又は養畜の事業を行うもの（賃貸人等）が、その土地を貸し付け、又は質入しようとする場合（転貸する場合）には、以下のうち該当するものに印を付してください。

- 賃借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。
- 賃借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。
- 農地保有合理化法人又は農地利用集積団滑化団体がその土地を農地売買事業の実施により貸し付けようとする場合。
- その土地を水田裏作（田において稲を通常栽培する期間以外の期間稲以外の作物を栽培すること。）の目的に供するため貸し付けようとする場合である。

（麦作の作付け状況＝ 、裏作の作付け状況＝ ）

- 農業生産法人の常時従事者である構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

記載例

<農地法第3条第2項第7号関係>

7 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼす影響を記載してください。(例えば、集落営農や担い手への集積等の取り組みへの支障農薬の使用方法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。)

特になし。

II 使用貸借権又は賃借権に限る申請での追加記載事項

権利を取得する者が、農業生産法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員が農作業に常時従事しない場合には、Iの記載事項に加え、以下も記入してください。

<農地法第3条第3項1号関係>

8 適正な利用を確保するための契約条件の状況(以下の該当するものに○を付してください。)

本件の権利の設定又は移転は、適正に利用していない場合に使用貸借又は賃借の解除をする旨の条件その他の適正な利用を確保するための条件が付された契約により行うものであることを

確約します。
 確約できません。

(留意事項)

当該条件が記されている契約書の写しを添付してください。また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは、乙は、その終了日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を原状に復して返還する。乙が原状に復することができないときは、甲が現状に回復するために要する費用を乙が負担する。」「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることになった場合には、乙は甲にに対し賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。」等を明記することが適当です。

契約書写しを添付が必要です。

記載例

<農地法第3条第3項第2号関係>

9 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどういった場面でどういった役割分担を担う予定であるか以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の利用取り決めの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください)

○ ○水路の共同利用に関しては、○○水利組合と利用についての契約を締結し、利用に関しては○○水路組合の規約を遵守し適正な利用に努める。

<農地法第3条第3項第3号関係> (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載してください)

10. その法人の業務を執行する役員のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の役職名及び氏名並びにその法人の行う農業への従事状況

(1) 氏名 熊本 次郎

(2) 役職名 代表取締役

(3) その者の農業への従事状況

その法人が農業(労務管理や市場開拓業務も含む。)を行なう期間:年 9 箇月

そのうちその者が当該事業に参画・関与している期間:年 9 箇月(直近の実績)

年 箇月(見込み)

特殊事由により申請する場合の記載事項

以下のいずれかに該当する場合は、該当するものに印を付し、I の記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業、計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

(1) 以下の場合は、I の記載事項全ての記載が不要です。

- その取得しようとする権利が地上権（民法第 269 条の 2 第 1 項の権利）若しくはこれと権利を同じくするその他の権利である場合。

（事業の計画・内容に加えて、周辺土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を以下の欄に記載してください。）

- 農業協同組合及び農業協同組合連合会が、農業協同組合法第 10 条第 2 項の委託を受けることによりその権利を取得しようとする動向に規定する事業を行う場合、又は、農業協同組合及び農業協同組合連合会が、同法第 11 条の 3 第 1 項第 1 号に掲げる場合において使用貸借による権利若しくは賃借権を取得しようとする場合。
- 権利を取得する者が景観整備機構である場合。

（景観法第 56 条第 2 項の規定により市町村長の指定を受けたことを証する書面を添付ください。）

(2) 以下の場合は、I の 1-2（効率要件）、2（農業生産法人要件）、5（下限要件）以外の記載事項を記載してください。

- 権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業がその法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究所又は農事指導のために行なわれると認められる場合。
- 地方公共団体（都道府県及び地方開発事業団を除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を、公用又は公共用に供すると認められる場合。
- 教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合。
- 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人種苗管理センター又は独立行政法人家畜改良センターがその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合。

(3) 以下の場合は、I の 2（農業生産法人要件）、5（下限要件）以外の記載事項を記載してください。

- 農業協同組合及び農業協同組合連合会又は農事組合法人（農業の経営の事業を行うものを除く）が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚茸共同飼育の用に供する桑園その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設のように供すると認められる場合。
- 森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取及び育成のように供すると認められる場合。
- 乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行うものの委託を受けて

記載例

その飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合。

(留意事項)

以下のいずれかに該当する場合一般社団法人又は一般財団法人に限ります。これを満たしていることを証する書面を添付してください。

- ・その行う事業が上述の事業及びこれに附帯する事業に限られている一般社団法人で、農業協同組合、農業協同組合連合会、地方公共団体その他農林水産大臣が指定した者の有する議決権の数の合計が議決権の総数の4分の3以上を占めるもの。

- ・地方公共団体の有する議決権の数が議決権の総数の過半を占める一般社団法人又は地方公共団体の拠出した基本財産の額が基本財産の総額の過半を占める一般財団法人。

- 東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合。

(事業・計画の内容)

該当する計画について記載

農業生産法人としての事業等の状況（別紙）

＜農地法第2条第3項第1号関係＞

1-1 事業の種類

区分	農 業		左記農業に該当しない 事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
現在（実績又は見込み）	イチゴ	イチゴジャムの生産	農業関係公演
権利取得後（予定）			

1-2 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
3年前（実績）	123,450,600	3,400,000
2年前（実績）	135,679,000	4,100,000
1年前（実績）	137,678,900	5,300,000
申請年の属する年 （実績又は見込み）	138,560,000	5,100,000
2年目（見込み）	158,000,000	4,900,000
3年目（見込み）	163,000,000	4,900,000

記載例

<農地法第2条第3項第2号関係>

2 構成員全ての状況（組合委員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。また、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法に基づく承認会社が構成員である場合には、当該承認会社であることを証する書面及びその構成員の株主名簿の写し。（その有する議決権を記載したもの）を添付してください。）

(1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業従事者、農地保有合理化法人、地方公共団体、農協、投資円滑化法に基づく承認会社等）

氏名又は名称	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
		農地等の提供面積(m ²)		農業への従事年数(年箇月)		農作業委託の内容
		権利の種類	面積(m ²)	直近実績	見込み	
阿蘇熊 太郎	1	所有権	4,567	8		耕起・刈取

(記載要領)

「農業への従事状況」には、その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している期間を記載してください。）

議決権の数の合計

6

農業関係者の議決権の割合

56%

その法人が農業（労務管理や市場開拓を含みます。）を行う期間：年 9 箇月

(2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けているもの等）

氏名又は名称	議決権の数	取引関係者等の内容（法人との連携について農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合は、法律の名称当該認定を受けた年月日、認定計画の期間満了日及び取引関係等の内容）

議決権の数の合計

10

関連事業者等の議決権の割合

1

(留意事項)

1 関連事業者がいる場合には、その法人とその構成員との間で締結された契約書の写し等その構成員が関連事業者であることを証する書面を添付してください。

2 「農商工連携法等の法律に基づく認定」は、食品流通構造改善促進法、中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律、農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律、米穀の新用途への利用の促進に関する法律のいずれかに基づく認定です。

3 「農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合」には、いずれかの認定を受けたことを証する書面の写しを添付してください。

<農地法第2条第3項第3号関係>

3 理事、取締役又は業務を執行する役員全ての状況

(1) 農業（労務管理や市場開拓等も含む）への従事状況

氏名	住所	役職	農業への従事状況（箇月）			
			直近実績	見込み	農作業への常時従事の有無	
					直近実績	見込み
阿蘇 次郎	阿蘇市〇〇〇〇番地	取締役	8	8	8	8



(記載要領)

「農業への従事状況」には、その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している期間を記載してください。

その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間：年 箇月

記載例

(2)「農作業の常時従事」があると記載された理事、取締役又は業務を執行する役員の、農作業への従事状況

(該当する期間を役員ごとに、直近実績は「」見込みは「」で示してください。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
その行う耕作又は用養畜の事業に必要な農作業の期間													
その者が農作業に常時従事する期間													

(「農作業に常時従事している期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、刈り取り等)にいつでも従事できる状態にあることです。)

(記載要領)

1 「1-1 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗利益の50%を越えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗利益も50%を超えない場合には、粗利益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。

2 「1-1 事業の種類」の「関連事業等」とは、

(1) 耕作又は養畜の事業に関連する次に掲げる事業

ア 農畜産物を原料又は材料として利用する製造又は加工

イ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売

ウ 農業生産に必要な資材の製造

エ 農作業の受託

オ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行なう者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供

(2) 農業と併せて行う林業

(3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業です。

3 「1-2 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。

「1年前」から「3年前」の各欄には、その法人の決算が確定している事業年度の売上高の許可申請前3事業年度分をそれぞれ記載し(実績のない場合は空欄)、「申請日の属する年」から「3年目」の各欄には、権利を取得しようとする農地等を耕作又は養畜の事業に供することになる日を含む事業年度を初年度とする3事業年度分の売上高の見込みをそれぞれ記載してください。

4 「2(1) 農業関係者」欄には、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。

複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとの議決権の数を記載してください。

5 「2(2) 関連業者」の「取引関係等の内容」欄には、例えば、「法人からの生産物を購入している食品会社」、「法人に肥料を販売する肥料会社」、「法人と特許権の専用実施権の設定を行っている種苗会社」等と記載してください。